

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第9回地域移行・地域生活支援部会			
(2) 開催日時	平成29年1月12日（木） 10:00～12:00			
(3) 開催場所	大田区役所 HK-203会議室			
(4) 出席した委員、事務局	委員（部会長：青山 明子）			
	白井 絵里子	志村 陽子	鶴田 雅英	福田 功志
	岡本 洋	齋藤 信子	林 達彦	山根 聖子
	山田 悠平	伊藤 朋春	岡田 あい子	井岡 幸子
	山田 紗梨	藤牧 裕佳子	川島 浩子	
	関係者：平林 直樹（障がい者総合サポートセンター居住支援部門主任） 石毛 哲洋（障がい者総合サポートセンター相談支援部門）			
	区職員：金子 江理子（健康医療政策課）			
区事務局：井村 陽介、岩下 祐輔、（障害福祉課）、 江波戸 宏（障がい者総合サポートセンター）				
(5) 内容・要旨	<p>1 確認・連絡事項</p> <p>(1) 司会・書記の確認（司会：山根委員、書記：齋藤委員）</p> <p>(2) 出欠者・配布資料の確認</p> <p>(3) 第3回運営会議の開催について</p> <p>(4) 第3回全体討議会の開催について</p> <p>(5) 第3回本会の開催について</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 勉強会の振り返り</p> <p>○委員からの感想、意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器の選択ということでは日本が進んでいることに驚いた。 ・胃ろうからお酒を入れることには驚いた。 ・暮らしが楽しくなる支援はいいと思った。 ・命の長さ、自己決定について考えさせられた。 ・介護の現場に似ていると感じた。 ・非常にデリケートな問題もあり、悩ましいと感じた。 ・多職種連携や地域包括ということについてデメリットがあるというのが印象的だった。 ・呼吸器の装着について介護する立場として考えさせられた。 ・ALSについて勉強になった。 ・後期高齢者は着けない選択をすることが多い。 ・社会資源については、以前より使いやすくなっている面もある。 ・サービス慣れしてしまうことへの不安がある。 			

- ・本人が軸になって支援体制をつくっていくことが大切。
- ・支援を受けることが当たり前ではないと感じた。
- ・本人が軸になるということについては、知的では難しい面もある。
- ・新たな雇用をつくっていく発想は勉強になった。
- ・本人が軸になる体制というのは覚悟が問われるところ。
- ・最初から重度と、徐々に重度になっていくのでは違う。保護者の選択になってしまう部分もあるのではないか。
- ・Facebookなどで現在は様々な情報が得られ、自己選択に役立つが、高齢者だと難しいのでは。
- ・企画から実施までこの部会でできたことは今年度の成果。
- ・部会としてこの話を今後どう生かしていくのが重要。
- ・地域としてどう支えていけるのか話し合うことも大切。

(2) これまでの検討のまとめ・次年度に向けて

①これまでの部会の活動について

- ・「戻る仕組みと支える仕組み」をテーマに検討してきた。
- ・部会のテーマに合わせて今年度より名称を変更した。
- ・3障がい一緒に検討する。
- ・3か年で成果を出していく計画で進めてきた。

②グループワーク

- ・今年度のまとめと課題について、グループ討議を行った。

③発表・まとめ

<成果>

- ・立場の違う者同士で、知らないことについて情報共有ができたことは良かった。
- ・地域の資源を抽出し、課題を出すことができた。

<課題>

- ・違う障がいについて同様のことができるのか検討していくことが部会として今後必要。
- ・点を線や面につなげていくことが大切。具体的にどうしていくかが次年度の課題。
- ・連携ということでは、役割分担を明確にしていく必要があるのでは。
- ・当事者の意見を聞くことが弱かったのでは。
- ・支援マップなど、見えるような形にしていくことが大切では。